

2023年12月期 第2四半期決算説明会

TAMRON
Focus on the Future

2023年8月8日（火）
株式会社タムロン
（証券コード：7740）

Tamron Co., Ltd.

目次

I.2023年概況

1. 2023年上期総括
2. 2023年通期見通し
3. 中期経営計画『Vision23』と進捗
 - ① 連結業績
 - ② 事業別動向
4. 戦略投資、企業価値向上への取り組み

II.2023年上期実績

1. 2023年上期連結実績
2. 営業利益変動要因
3. 2023年上期セグメント別実績
 - ①写真関連事業
 - ②監視&FA関連事業
 - ③モビリティ&ヘルスケア、その他事業

III.2023年通期計画

1. 2023年通期連結計画
2. 2023年通期セグメント別計画
 - ①写真関連事業
 - ②監視&FA関連事業
 - ③モビリティ&ヘルスケア、その他事業
3. サステナビリティ/ESGへの取り組み

IV.サステナビリティ/ESGへの取り組み

1. 価値創造プロセス
2. 主な活動と実績
3. 事業領域の拡大

IV.参考情報

1. 財政状況
2. 設備投資、減価償却費、研究開発費
3. キャッシュ・フロー
4. 配当金、主要経営指標
5. 為替影響

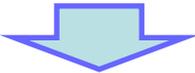
I . 2023年概況

I - 1 . 2023年 上期総括

経営環境

- ・ロシアのウクライナ侵攻の長期化、エネルギー問題、世界的な高インフレ、各国の利上げ政策等、不透明感が続く状況も、景気は緩やかな回復基調
- ・大幅な円安の進行（ドル、ユーロともに22年上期比で12円の円安）
- ・レンズ交換式カメラ市場、交換レンズ市場は数量はほぼ横ばいも金額では増加。

当社業績

- ・ **増収、すべての利益**（営業利益、経常利益、当期利益）において**2桁増益**
⇒営業利益率はすべてのセグメントにおいて10%以上を達成
 - ・ 部材コスト増抑制・原価低減推進等により粗利率は**3.4pt上昇**
（販管費は22年上期のコロナ禍からの反動増（展示会出展、営業活動活性化等）となるも粗利増で吸収）
- 
- ・ 営業利益、経常利益、純利益は22年に続き上期の**過去最高更新**。
 - ・ 中間配当金を**5円増配**

I - 2 . 2023年 通期見通し

経営環境

- ・ 上期同様に、世界的なインフレ、利上げ政策の継続 ⇒不透明感継続
- ・ 資源高による部材コスト上昇懸念、半導体不足等の緩和による在庫調整の動き。
- ・ 円安基調の継続

当社業績

【下期見通し】

- ・ 産業分野での中国のウィズコロナ政策転換後の市場回復遅れや在庫調整等の影響
- ・ 上期からの繰り越しや、コロナ禍明けの営業活動費用、中長期施策による販管費の増加
- ・ ウィズコロナ下での購買契機増等により主力の写真関連事業は好調継続

【通期見通し】

2桁の増収増益

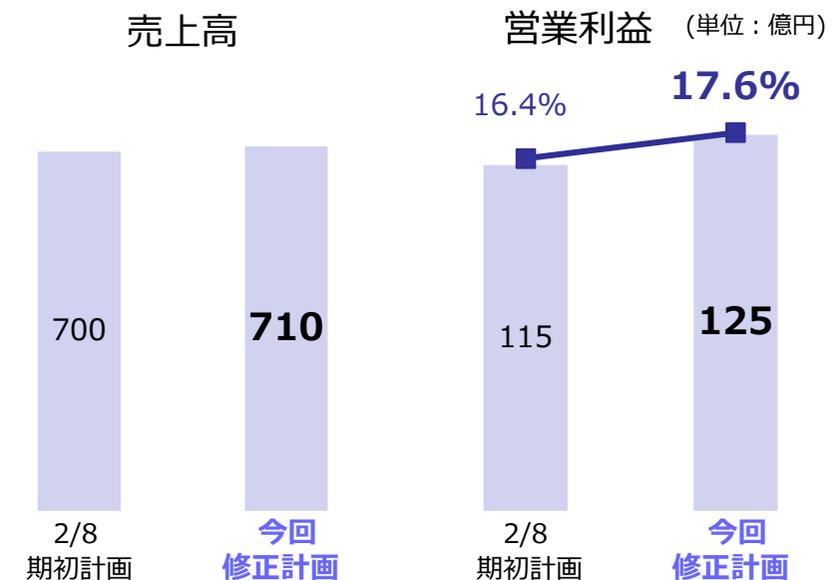
2期連続で過去最高益更新を見込む

※営業利益、経常利益、当期純利益全てで過去最高益更新

⇒様々な変化に耐え得る利益体質への変革と持続的成長への投資・施策の実行を両立

【2023年通期計画推移】

売上・利益ともに上方修正



I - 3 . 中期経営計画『Vision23』と進捗 ①連結業績

中期経営計画『Vision23』（2021年2月公表）

	2020年 実績	2023年 中期計画
売上高	484億円	610億円
営業利益	36億円	70億円
営業利益率	7.4%	11.5%
ROE	3.9%	9%以上

※為替前提

ドル = 105円
ユーロ = 123円

1年目進捗

	2021年 実績	2022年 実績
売上高	575億円	634億円
営業利益	74億円	110億円
営業利益率	12.9%	17.4%
ROE	10.5%	14.8%

ドル = 109.91円
ユーロ = 129.95円

2年目進捗

	2023年 期初計画	2023年 計画
売上高	700億円	710億円
営業利益	115億円	125億円
営業利益率	16.4%	17.6%
ROE	13.2%	14.8%

ドル = 130.00円
ユーロ = 138.00円

ドル = 136.01円
ユーロ = 149.00円



➤ 1年目で利益面は 中期計画を達成
(コロナ禍から早期V字回復)

➤ 2年目で中期計画を全ての面で
1年前倒し達成
(2年目で売上高も中期計画達成)

・ 営業利益は更に積み増し、
中期計画の1.5倍以上

⇒ 15期ぶりに過去最高利益を大幅更新
(初の100億円の大台突破)

中期計画を大幅に超える
3期連続増収増益目指す

➤ 売上は700億円突破へ

➤ 営業利益は中期計画の
約1.8倍へ

➤ 22年までの達成状況等も踏まえ、新たな目標設定

I-3. 中期経営計画『Vision23』と進捗

②事業別動向

中期経営計画『Vision23』事業方針

- ◆監視&FA関連、モビリティ&ヘルスケア、その他の事業規模拡大
- ◆全セグメントにて利益率10%超となる事業ポートフォリオを構築



- ◇監視&FAは100億円、車載は50億円の売上達成
- ◇全セグメント利益率10%超を1年前倒して達成

<2022年成果>

写真関連事業

- ◆中核事業として高収益維持
- ・ミラーレスへの集中注力によるラインナップ倍増
- ・新規フォーマットへの迅速対応
- ・OEMでのインスタシェア向上

監視&FA関連事業

- ◆第二の柱へと売上・利益成長
- ・巨大な中国市場の取り込み、SWIR含む新規技術やモジュールビジネスでの事業拡大
- ・FAでのOEM創出、シェア向上

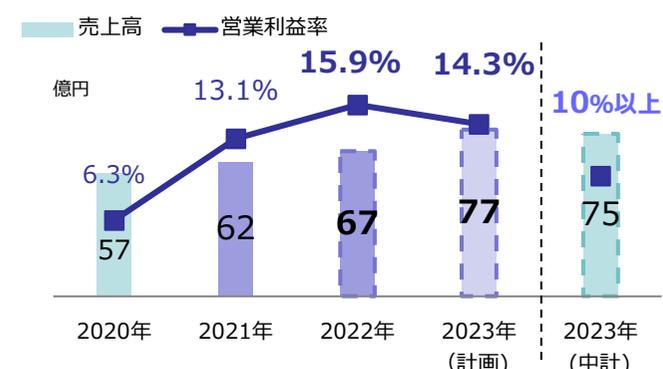
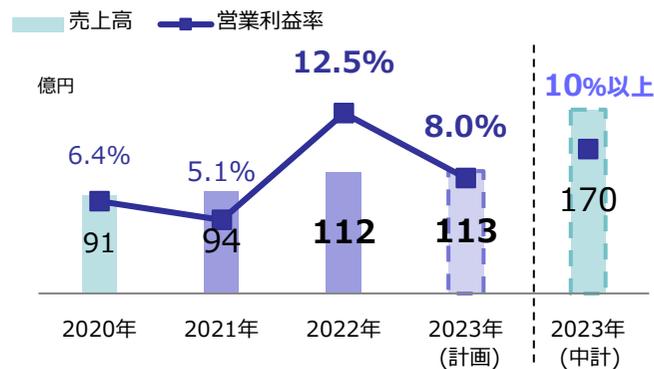
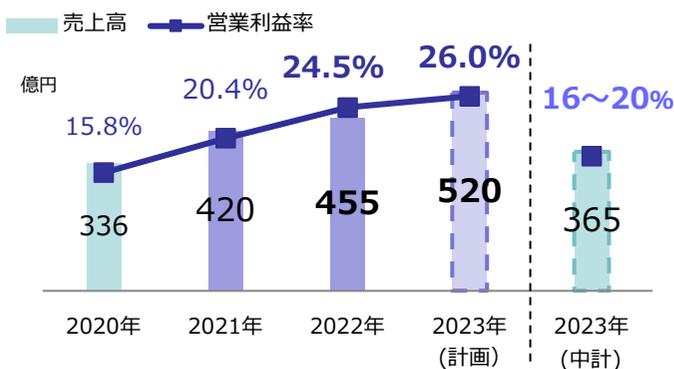
モビリティ&ヘルスケア,その他事業

- ◆次世代の柱の立ち上げ
- ◆新規事業領域の創出
- ・車載センシング強化、顧客開拓
- ・医療事業の本格立上げ、ヘルスケア領域への展開推進

	2020年 実績	2023年 中期計画
売上高	336億円	365億円
営業利益率	15.8%	16~20%

	2020年 実績	2023年 中期計画
売上高	91億円	170億円
営業利益率	6.4%	10%以上

	2020年 実績	2023年 中期計画
売上高	57億円	75億円
営業利益率	6.3%	10%以上



売上高/利益率目標を大幅に達成

- ※MLラインナップ数8本(20年末) ⇒現在21本
- ※新規2マウント対応

売上高100億円突破/利益率目標達成

- ※主力の監視とFAは2期連続2桁の増収
- ※FAでの製品ラインナップ刷新、OEM案件の獲得

売上高は計画通り進展/利益率目標を達成

- ※主力の車載は2期連続2桁の増収
- ※医療に加え、次期ビジネス分野を創出

I-4. 戦略投資、企業価値向上への取り組み

新工場建設

持続的成長を見据えて
グループ全体の生産体制を一層強化

- ・中長期的な事業拡大への対応
- ・サプライチェーン等を含む安定供給体制やコスト対応力の強化

<新工場の概要>

名称	タムロンベトナム・タンロン工場（仮）
投資額	約40億円（予定） ⇒うち2023年：18億円（予定）
スケジュール	着工：2023年10月 稼働：2025年1月 ⇒計画どおり進捗
工場規模	土地 約25,000㎡

財務/資本政策

ROICがWACCを大きく上回り、ROE向上

2020年		2022年	
ROE 3.9%	< 株主資本コスト 7.0%	ROIC 5.2%	< WACC 6.7%
ROE 14.8%	> 株主資本コスト 7.3%	ROIC 12.4%	> WACC 7.1%

収益性の向上	資産効率性の改善	株主還元の実現・資本政策の実行
<ul style="list-style-type: none"> ・開発、生産コストの低減 ・オペレーションコストの低減 	<ul style="list-style-type: none"> ・資産回転率の向上 ・ROAの向上 ・ROICの向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・利益に応じた安定した株主還元の実施 ・機動的な資本政策の遂行
<p>2020年⇒2022年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・租利率：38.0%⇒43.5% ・販管費比率：30.6%⇒26.1% ・実行税率低減 	<p>2020年⇒2022年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総資産回転率：0.8回⇒0.9回 ・ROA：5.9%⇒16.1% ・ROIC：5.2%⇒12.4% 	<p>[2020年]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己株式取得（発行済株式総数に占める割合：18.87%、取得額：89億円） <p>[2021年]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己株式消却（消却前発行済株式総数に占める割合：3.66%） <p>[2022年]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去最高年間配当金120円

2023年6月

自己株式消却実施

消却株式数 **1,600,000株**（消却前発行済株式総数比 6.40%）

企業価値の向上：時価総額 **1,000億円**へ（2022年末比 1.4倍）

企業規模、事業規模を大きく上回る企業価値の創出

- ・リスクを機会化する戦略投資、戦略施策の積極実行（サステナビリティ経営）
- ・IR施策等も通じた財務価値、非財務価値、双方の最大化

22年末 23/7末

- ・PBR（資産規模と企業価値） 1.0倍 1.6倍
- ・PSR（売上規模と企業価値） 1.2倍 1.7倍
- ・TSR（株主価値） 継続増大

Ⅱ. 2023年上期実績

Ⅱ-1. 2023年上期 連結実績

- 前年比増収、粗利率約3.4%改善により、各利益で2桁の増益。
- 売上はほぼ計画通り。利益は計画比2桁の増益。

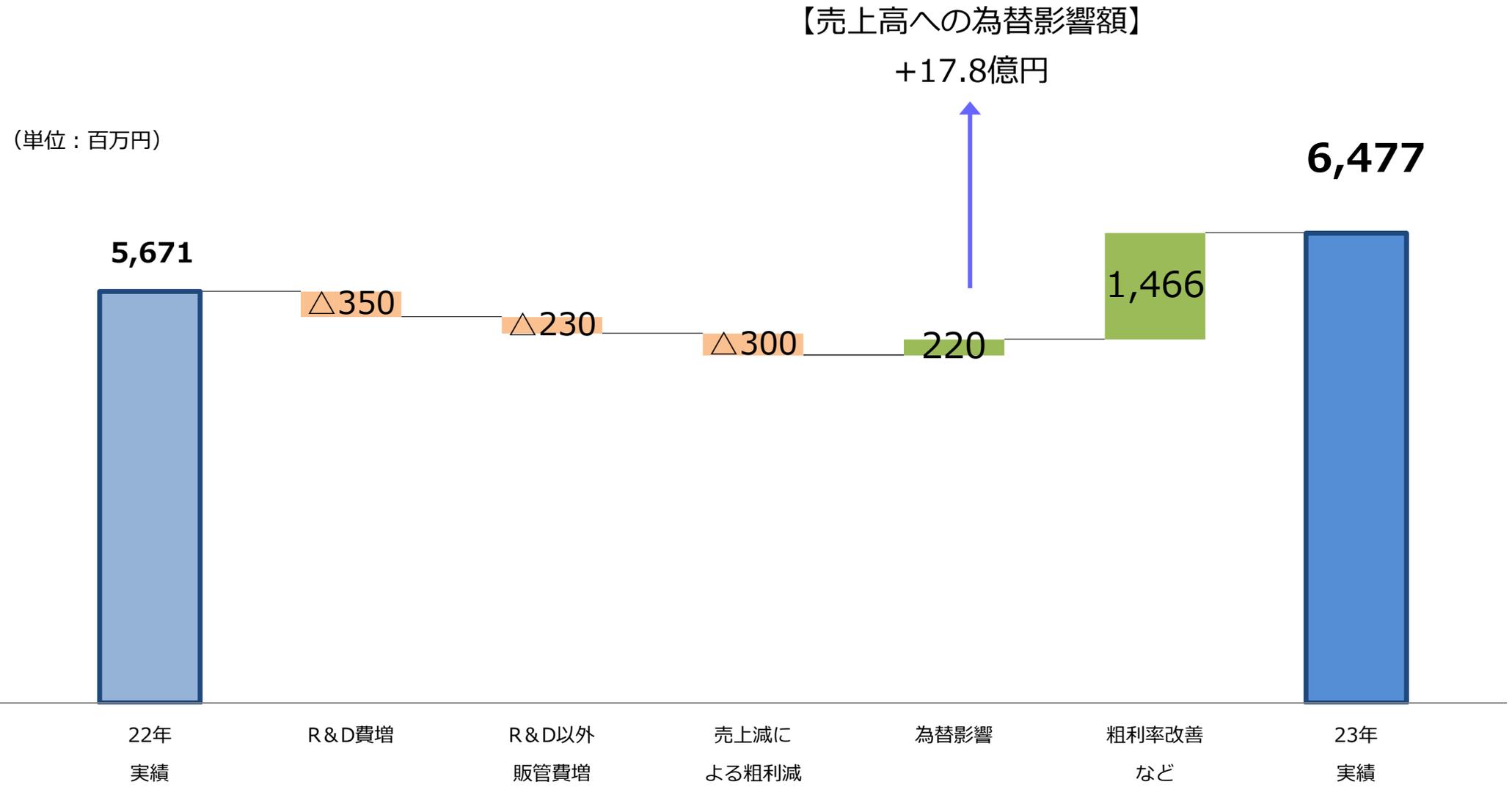
(単位：百万円)	2022年 上期実績	2023年 上期計画 (4/28計画)	2023年 上期実績	増減 (対前年)		増減 (対計画)	
				額	率	額	率
売上高	31,699	32,500	32,752	+1,052	+3.3%	+252	+0.8%
粗利益	13,283	-	14,845	+1,561	+11.8%	-	-
粗利益率	41.9%	-	45.3%	+3.4%	-	-	-
営業利益	5,671	5,700	6,477	+805	+14.2%	+777	+13.6%
営業利益率	17.9%	17.5%	19.8%	+1.9%	-	+2.3%	-
経常利益	5,954	5,700	6,891	+937	+15.7%	+1,191	+20.9%
経常利益率	18.8%	17.5%	21.0%	+2.2%	-	+3.5%	-
四半期純利益	4,565	4,540	5,329	+763	+16.7%	+789	+17.4%
純利益率	14.4%	14.0%	16.3%	+1.9%	-	+2.3%	-
ドル	123.15	131.22	135.01	+11.86	-	+3.79	-
ユーロ	134.44	140.12	145.99	+11.55	-	+5.87	-



Ⅱ-2. 営業利益変動要因

▶ 為替影響を除いても2桁増益

(単位：百万円)

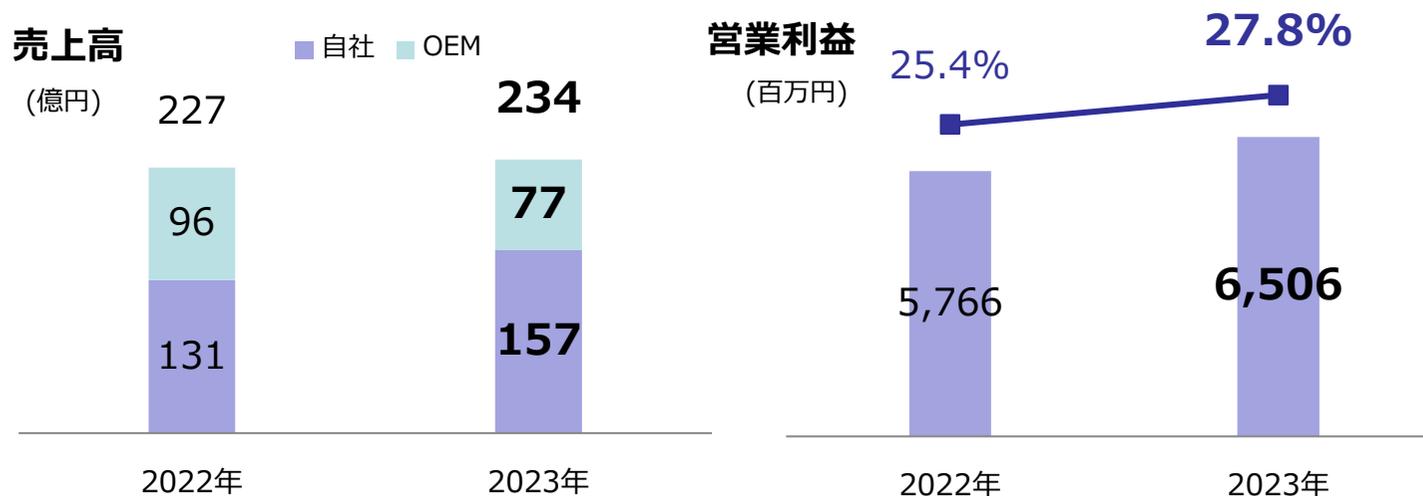


Ⅱ-3. 2023年上期 セグメント別実績

①写真関連事業

(単位：百万円)	2022年 上期実績	2023年 上期計画 (4/28計画)	2023年 上期実績	増減 (対前年)		うち 為替影響	増減 (対計画)	
				額	率		額	率
売上高	22,737	22,800	23,425	+687	+3.0%	+11.6億円	+625	+2.7%
営業利益	5,766	6,050	6,506	+739	+12.8%	+0.8億円	+456	+7.5%
営業利益率	25.4%	26.5%	27.8%	+2.4%	-	-	+1.3%	-

- 自社ブランドは2021年半ば以降から投入のミラーレスモデル新製品投入効果により好調
- OEMは前年同期はカメラメーカーへの供給が好調だったことでの反動減
- 自社ブランド好調による粗利率向上により、**計画を上回り、営業利益率は約28%へ**



<参考> 市場 対前年同期比

	数量	金額
一眼レフ	▲37%	▲36%
ミラーレス	+22%	+21%
レンズ交換式 カメラ計	+2%	+12%
交換レンズ	▲3%	+3%

Ⅱ-3. 2023年上期 セグメント別実績

②監視&FA関連事業

(単位：百万円)

	2022年 上期実績	2023年 上期計画 (4/28計画)	2023年 上期実績	増減 (対前年)		うち 為替影響	増減 (対計画)	
				額	率		額	率
売上高	5,694	5,900	5,432	△262	△4.6%	+6.0億円	△467	△7.9%
営業利益	682	500	575	△106	△15.7%	+1.3億円	+75	+15.1%
営業利益率	12.0%	8.5%	10.6%	△1.4%	-	-	+2.1%	-

- 監視、FA/マシンビジョン用レンズは、日本や欧州での販売好調継続により増収
- TV会議用レンズ、カメラモジュールは在庫調整等の影響で減収

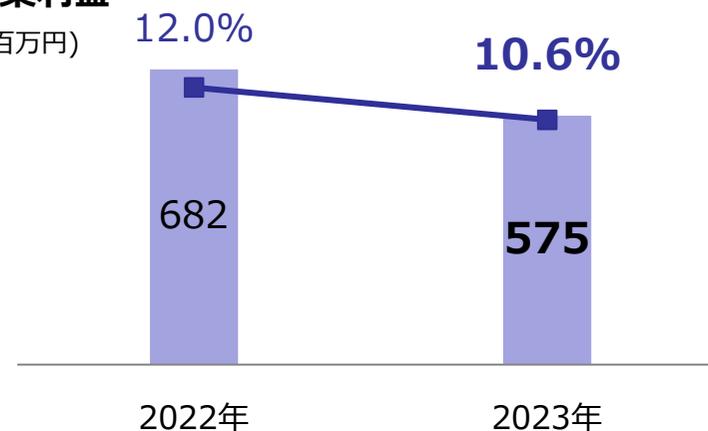
売上高

(億円)



営業利益

(百万円)

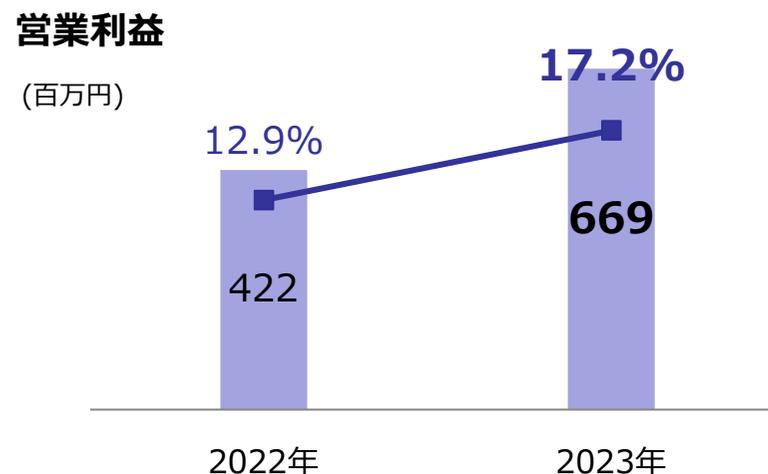
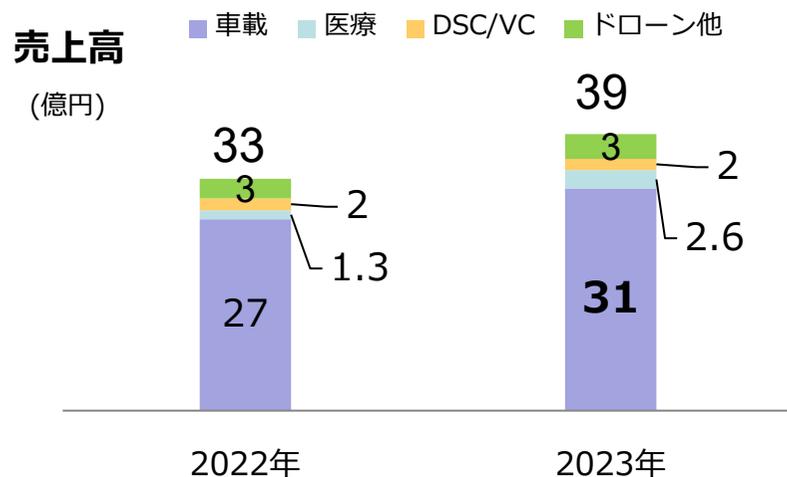


Ⅱ-3. 2023年上期 セグメント別実績

③モビリティ&ヘルスケア、その他事業

(単位：百万円)	2022年 上期実績	2022年 上期計画 (4/28計画)	2023年 上期実績	増減 (対前年)		うち 為替影響	増減 (対計画)	
				額	率		額	率
売上高	3,267	3,800	3,894	+627	+19.2%	+0.2億円	+94	+2.5%
営業利益	422	450	669	+246	+58.4%	+0.1億円	+219	+48.8%
営業利益率	12.9%	11.8%	17.2%	+4.3%	-	-	+5.4%	-

- 車載用レンズの2桁増収継続、医療用は売上倍増等により2桁増収
- 増収効果やコスト抑制等により、**計画を大きく上回り、営業利益率は17%台へ**



Ⅲ. 2023年通期計画

Ⅲ-1. 2023年通期 連結計画

- ▶ 下期は2桁増収、2桁営業増益を見込み、通期では2桁増収、すべての利益で2桁増益へ（通期では為替影響を除いても、概ね2桁増収、2桁営業増益）
- ▶ 営業利益率17%台の企業体質、昨年引き続き過去最高益を更新へ

(単位：百万円)

	2022年 通期実績	2023年 通期計画 (期初計画)	2023年 通期修正計画	増減 (対前年)		増減 (対計画)	
				額	率	額	率
売上高	63,445	70,000	71,000	+7,554	+11.9%	+1,000	+1.4%
営業利益	11,038	11,500	12,500	+1,461	+13.2%	+1,000	+8.7%
営業利益率	17.4%	16.4%	17.6%	+0.2%	-	+1.2%	-
経常利益	11,496	11,500	12,700	+1,203	+10.5%	+1,200	+10.4%
経常利益率	18.1%	16.4%	17.9%	△0.2%	-	+1.5%	-
当期純利益	8,350	8,370	9,400	+1,049	+12.6%	+1,030	+12.3%
純利益率	13.2%	12.0%	13.2%	-%	-	+1.2%	-
ドル	131.63	130.00	136.01	+4.38	-	+6.01	-
ユーロ	138.19	138.00	149.00	+10.81	-	+11.00	-

※下期前提為替レート
 ドル : 130円 ⇒ 137円
 ユーロ : 138円 ⇒ 152円

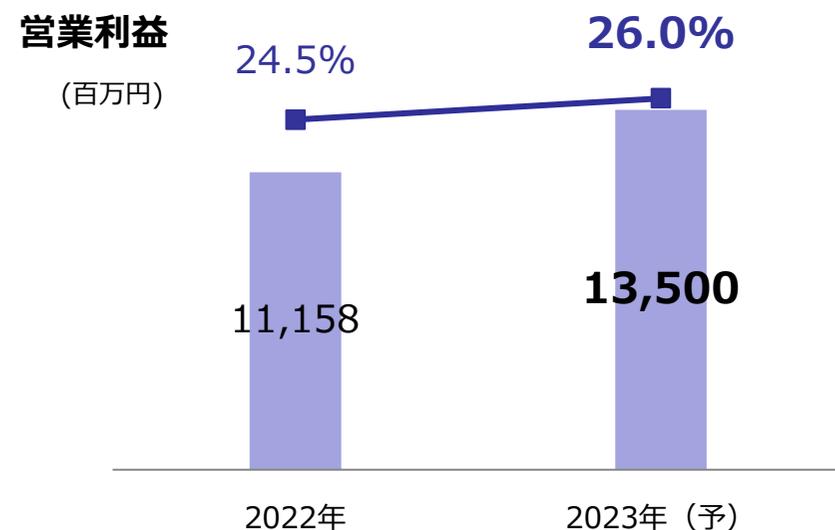
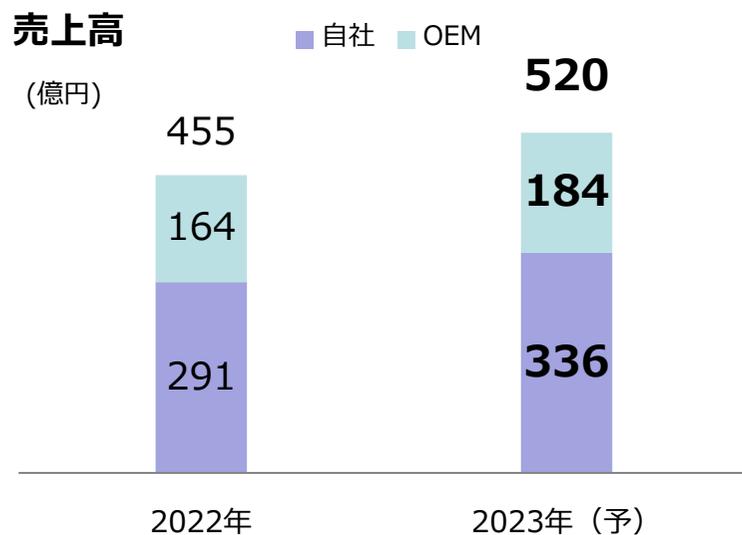
Ⅲ-2. 2023年通期 セグメント別計画

①写真関連事業

(単位：百万円)	2022年 通期実績	2023年 通期計画 (期初計画)	2023年 通期修正計画	増減 (対前年)		増減 (対計画)	
				額	率	額	率
売上高	45,519	47,800	52,000	+6,480	+14.2%	+4,200	+8.8%
営業利益	11,158	11,600	13,500	+2,341	+21.0%	+1,900	+16.4%
営業利益率	24.5%	24.3%	26.0%	+1.5%	-	+1.7%	-

➤ 自社ブランド・OEMとも2桁増収計画

➤ 営業利益率は粗利率の向上により更に向上。営業利益も2桁増益



自社ブランド新製品投入状況

※2020年より新機種はミラーレスのみ

区分	2020年投入	2021年投入	2022年投入
ミラーレス	単焦点 1月発売  20mm F/2.8 OSD M1:2 (F050)		
	広角ズーム 6月発売  11-20mm F/2.8 RXD (B060)		
	標準ズーム 1月発売  10月発売  17-70mm F/2.8 VC RXD (B070) 28-75mm F/2.8 VXD G2 (A063)	7月発売  富士フィルム Xマウント用 17-70mm F/2.8 VC RXD (Model B070)	10月発売  20-40mm F/2.8 VC RXD (Model A062)
	望遠ズーム 5月発売  10月発売  70-180mm F/2.8 VXD (A056) 70-300mm F/4.5-6.3 RXD (A047)	6月発売  10月発売  150-500mm VC VXD (A057) 35-150mm F/2-2.8 VXD (A058)	9月発売  9月発売  10月発売  50-400mm F/4.5-6.3 VC VXD (Model A067) 70-300mm F/4.5-6.3 RXD (A047) 150-500mm F/5-6.7 VC VXD (Model A057) 富士フィルムXマウント用 3機種目
	高倍率ズーム 6月発売  28-200mm F/2.8-5.6 RXD (A071)	9月発売  10月発売  ソニー Eマウント用 富士フィルムXマウント用 18-300mm VC VXD (B061) 当社初の富士フィルムXマウント用レンズを ソニー Eマウント用と同時開発	当社初のニコンZマウント用 レンズを投入

2023年投入

5月発売

11-20mm F/2.8
 III-A RXD (Model B060)
 富士フィルムXマウント用



【製品特徴】
 大口径 F2.8 の明るさと、
 抜群の携帯性を両立した
 超広角ズームレンズ

今秋発売予定

35-150mm F/2-2.8
 VXD (Model A058)
 ニコンZマウント用



【製品特徴】
 世界初、F2スタート、準広角
 から望遠までシームレスに撮
 影可能な大口径ポートレート
 ズームレンズ

年間 5機種 投入予定

Ⅲ-2. 2023年通期 セグメント別計画

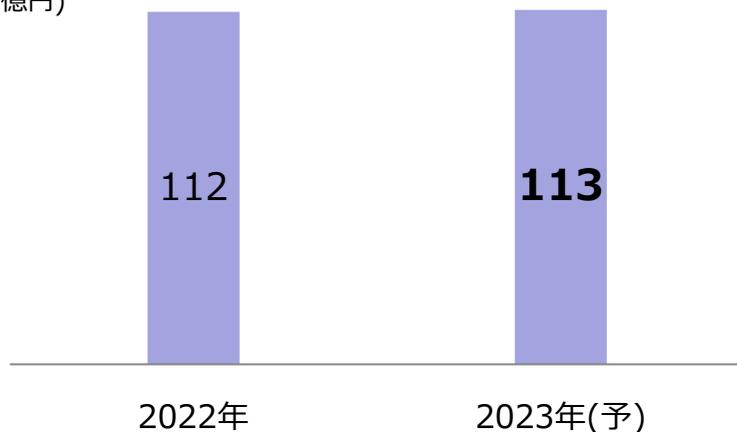
② 監視 & F A 関連事業

(単位：百万円)	2022年 通期実績	2023年 通期計画 (期初計画)	2023年 通期修正計画	増減 (対前年)		増減 (対計画)	
				額	率	額	率
売上高	11,236	13,000	11,300	+63	+0.6%	△1,700	△13.1%
営業利益	1,399	1,600	900	△499	△35.7%	△700	△43.8%
営業利益率	12.5%	12.3%	8.0%	△4.5%	-	△4.3%	-

- 在庫調整等の影響を受けつつも、監視やFA用、カメラモジュールは増収。しかしTV会議の減収が大きく微増収
- 中国市場での低調、コロナ禍明けの在庫調整による新機種所要減により、開発費用の回収遅れ等で、減益見込み

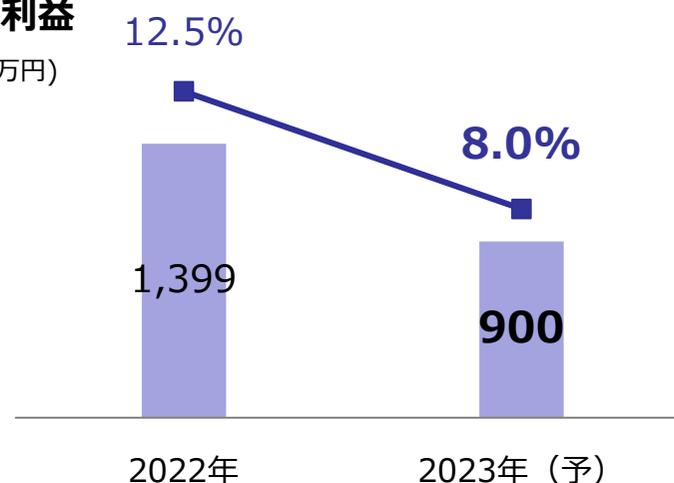
売上高

(億円)



営業利益

(百万円)



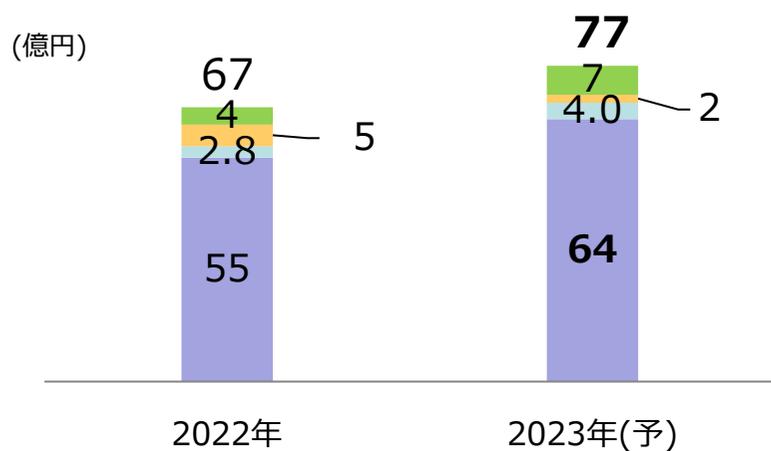
Ⅲ-2. 2023年通期 セグメント別計画

③モビリティ&ヘルスケア、その他事業

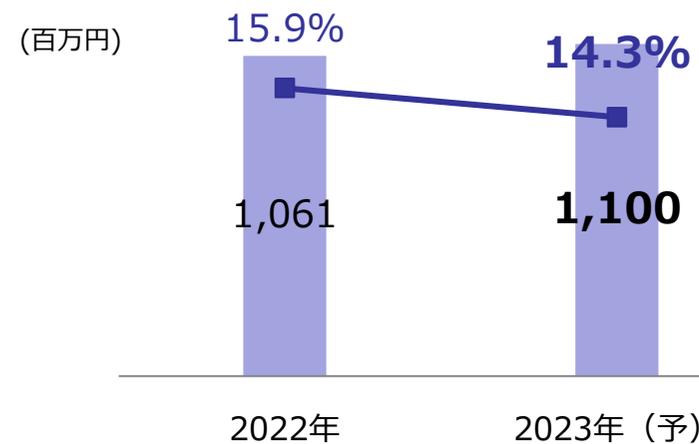
(単位：百万円)	2022年 通期実績	2023年 通期計画 (期初計画)	2023年 通期修正計画	増減 (対前年)		増減 (対計画)	
				額	率	額	率
売上高	6,689	9,200	7,700	+1,010	+15.1%	△1,500	△16.3%
営業利益	1,061	1,100	1,100	+38	+3.6%	0	-%
営業利益率	15.9%	12.0%	14.3%	△1.6%	-	+2.3%	-

- 車載カメラ用レンズの2桁増収継続、ドローン、医療の売上大幅増により**2桁増収**
- 新事業分野への投資・開拓費用の積極化等もあり利益率は低下も、増益確保
- 車載カメラ用レンズの半導体不足影響等による所要減により売上を下方修正も、粗利率改善等で利益は維持

売上高 (億円) ■ 車載 ■ 医療 ■ DSC/VC ■ ドローン他

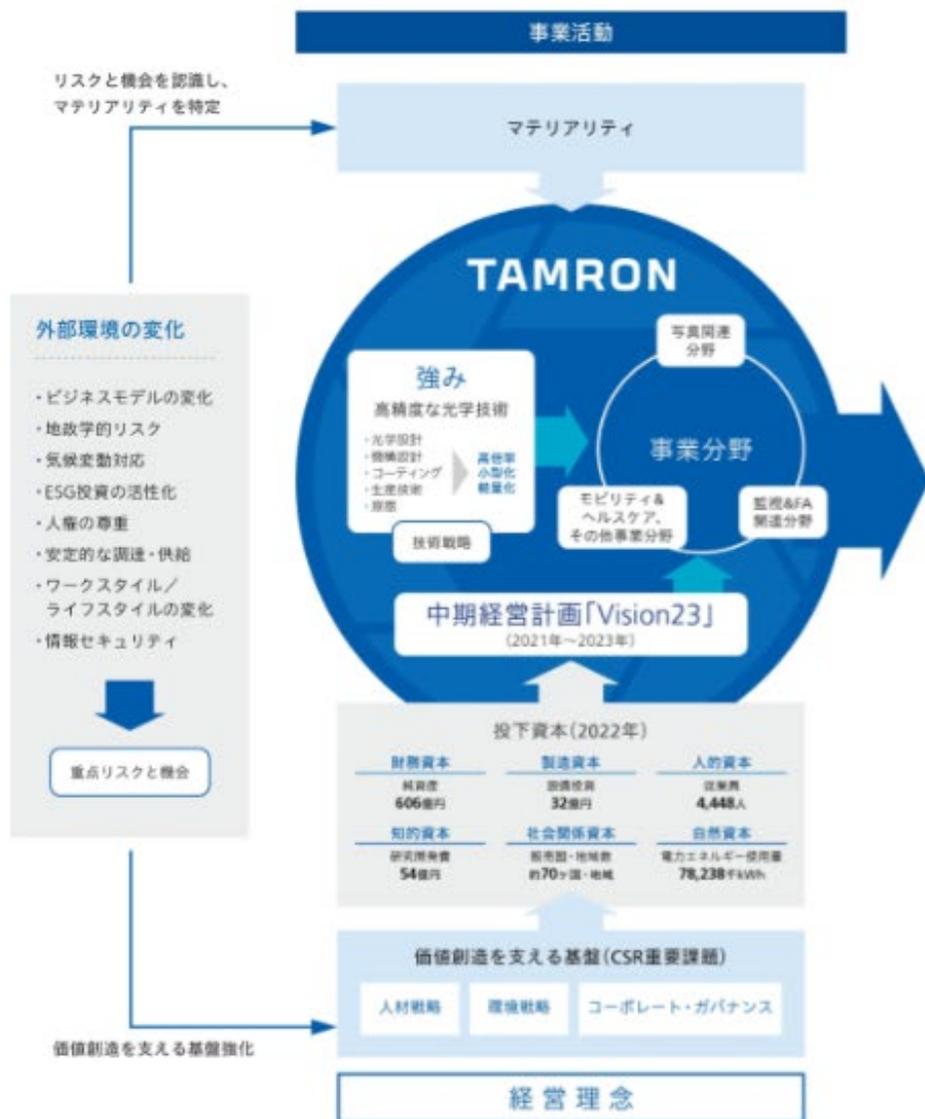


営業利益 (百万円)



IV. ESG・サステナビリティへの取り組み

IV-1. 価値創造プロセス



IV-2. 主な活動と実績



	主な取り組み項目	実績
	CO ₂ 削減	2022年：目標6%減（2015年比）⇒ 実績 15%減
E	再エネ施策の推進	2022年：再生エネルギーの購入開始。更に購入割合を向上
	TCFDへの取り組み	TCFDへの賛同、TCFDに準拠した情報開示実施
	女性管理職比率の向上	2021年：7% ⇒ 2022年： 10%に向上
S	残業時間の削減	2022年：2021年比 24%削減
	ビジネスと人権への取り組み	人権尊重強化の体制構築（23年4月人権方針策定、人権デューディリジェンス体制構築）
	取締役会の構成改善	2023年3月：独立社外取締役の割合を 40% へ（女性、外国籍、経験等の多様性も確保）
G	取締役の任期短縮、報酬指標見直し	2022年：任期を 1年に短縮 、株式報酬の中期業績評価指標に TSR追加 ⇒改訂ガバナンス・コードの 全原則をコンプライ （プライム市場向け原則含む）

IV-3. 事業領域の拡大

技術力を活かした事業領域の拡大

凡例

今後の参入検討分野

現状の参入分野

多彩な分野で「心豊かな社会」を実現

技術戦略の推進

各産業において
“撮る”から“測る”へ

農業分野

農畜作物観察、農業散布

物流分野

ウェアラブル、無人宅配

インフラ分野

測量、建造物点検、設備点検

ロボット分野

スマートハウス、サービスロボット

家電分野

デジタルカメラ

セキュリティー分野

都市監視、ITS(交通監視)、顔認証

自動車分野

ADAS/自動運転技術

空間光通信分野

6G、宇宙通信

介護/ヘルスケア分野

VR、ウェアラブル機器

赤外線技術

高精度
センシング技術

モジュール化技術

小型・軽量化技術

工業分野

FAカメラ、AI、画像処理

医療分野

硬性内視鏡、3D内視鏡

高感度技術

光学技術

コーティング技術

高耐熱技術

高精度評価技術

高耐久技術

生産技術

機構技術

可視光技術

既存技術領域の深耕

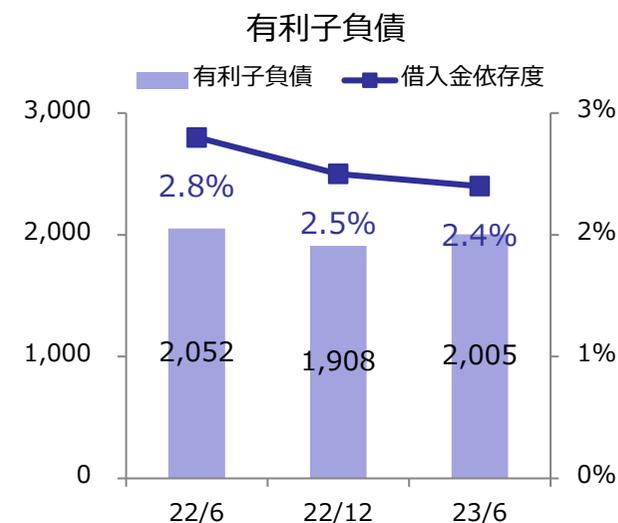
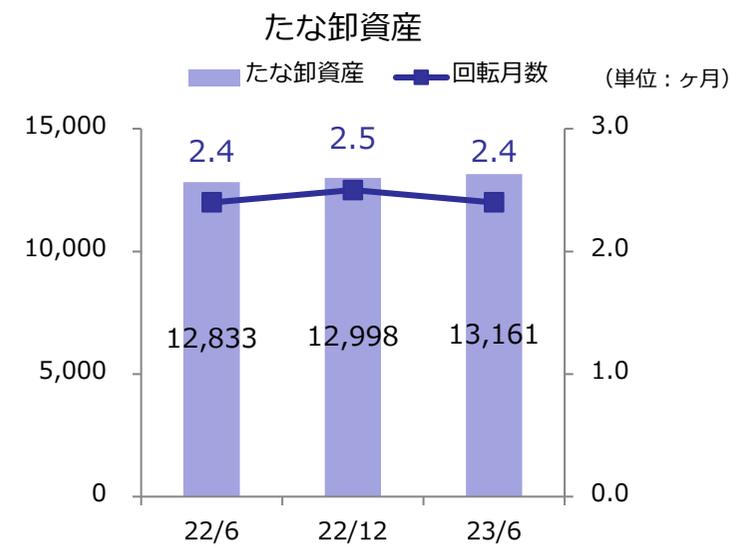
周辺技術領域への参入

V. 参考情報

V-1. 財政状態

(単位：百万円)

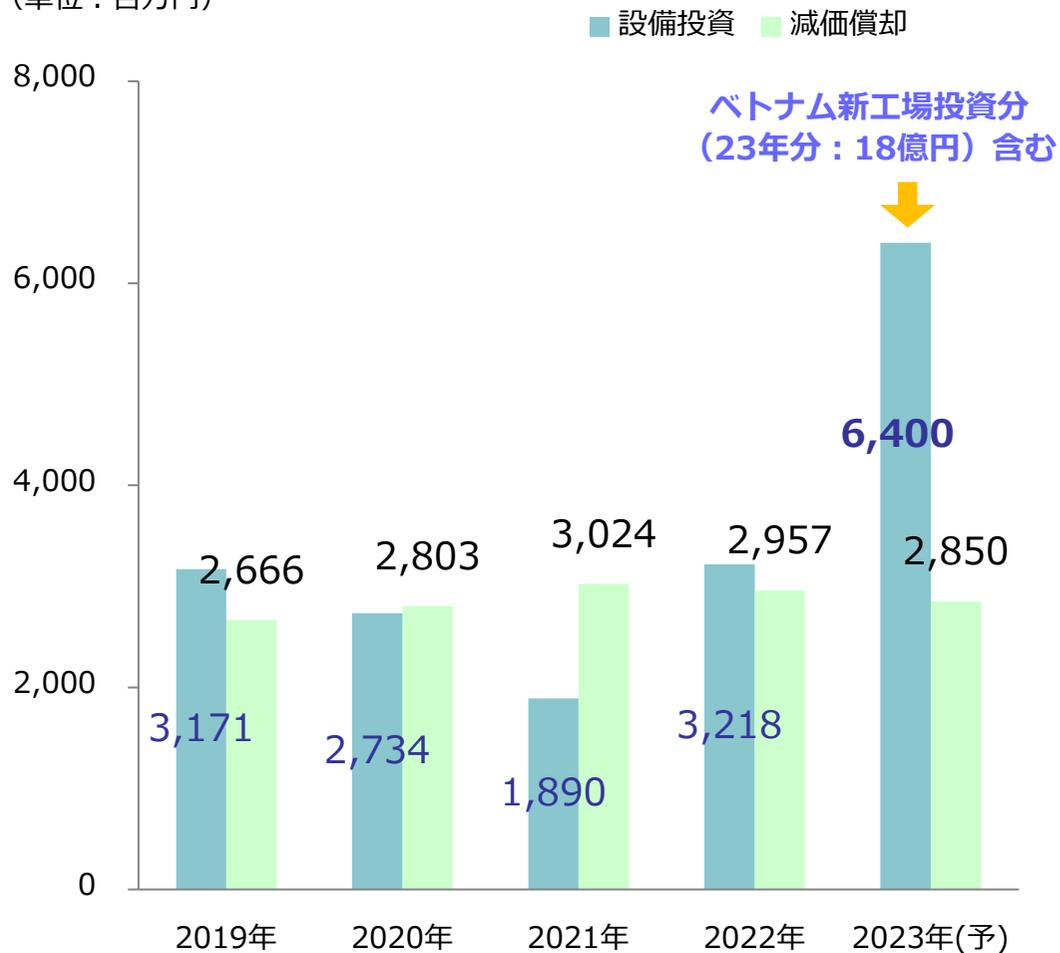
	2022年 12月末	2023年 6月末	増減 (対前期末)
現金・預金	29,948	32,394	+2,446
受取手形・売掛金	11,128	13,156	+2,028
たな卸資産	12,998	13,161	+163
その他流動資産	1,230	1,508	+277
固定資産	20,250	22,270	+2,020
資産合計	75,556	82,492	+6,935
流動負債	12,685	13,740	+1,054
固定負債	2,295	2,706	+411
純資産	60,574	66,044	+5,469
負債純資産合計	75,556	82,492	+6,935
自己資本比率	80.2%	80.1%	△0.1%



V-2. 設備投資額、減価償却費、研究開発費

設備投資額・減価償却費

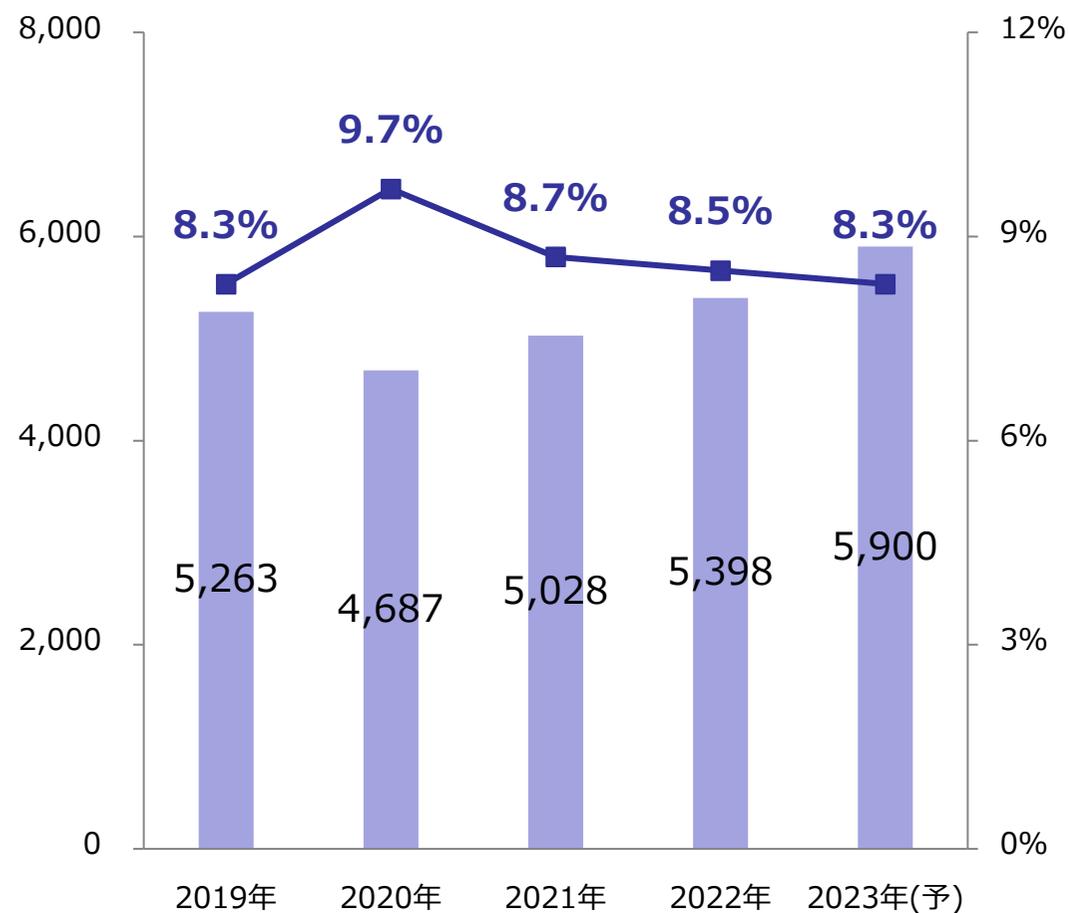
(単位：百万円)



研究開発費

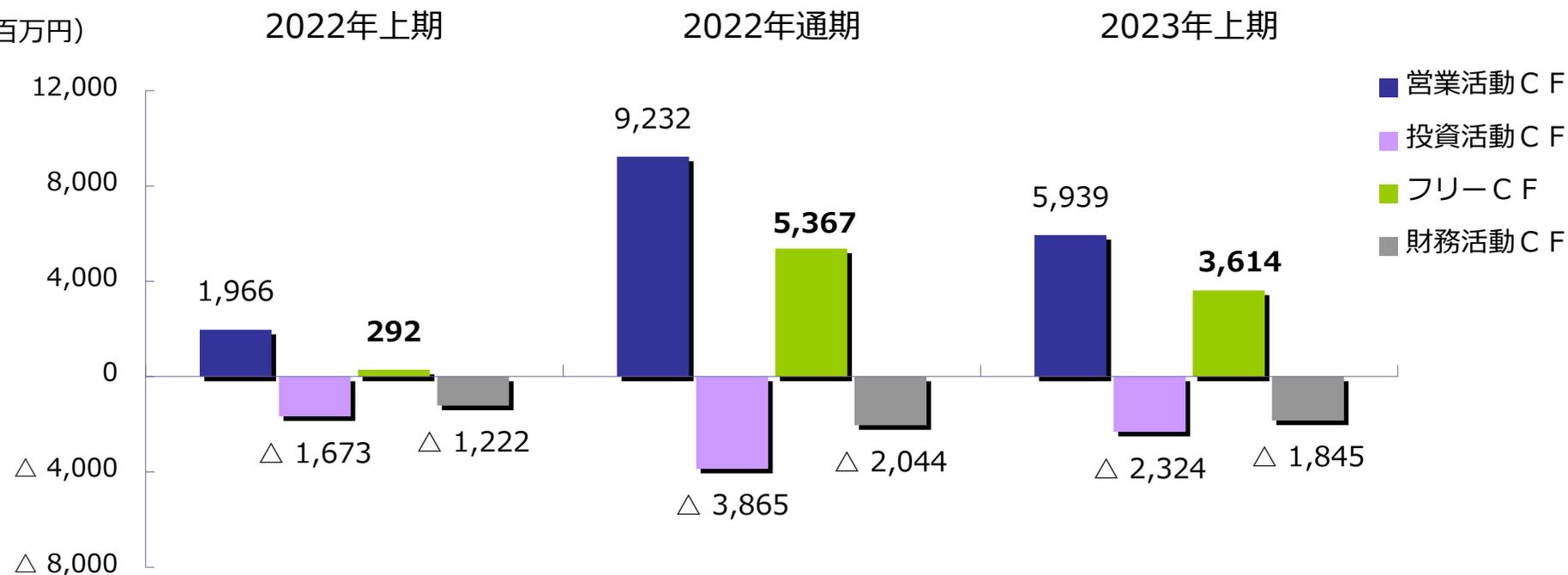
(単位：百万円)

売上高
研究開発費比率



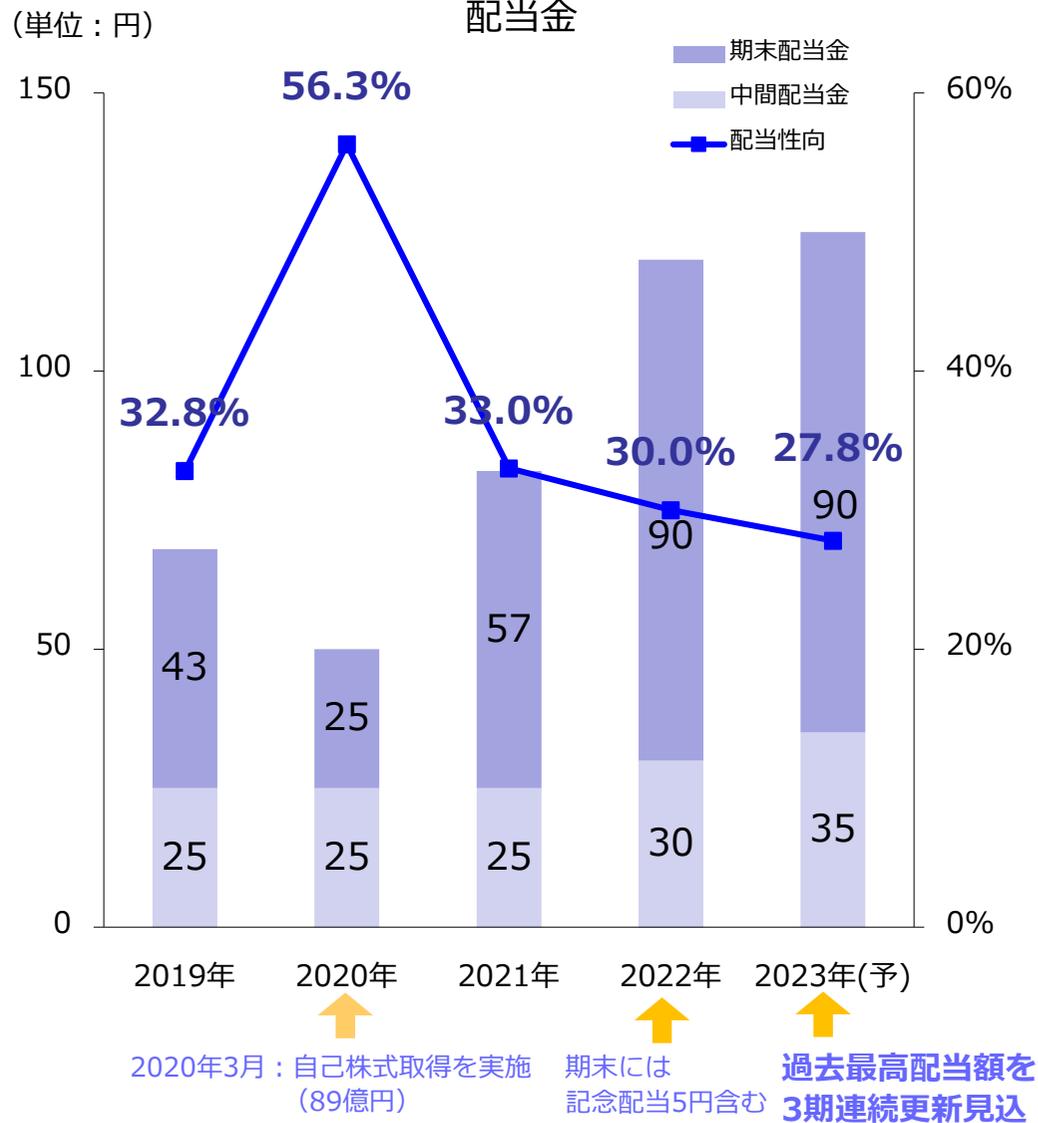
V-3. キャッシュ・フロー

(単位：百万円)



	2022年上期	2022年通期	2023年上期
営業活動CF	1,966	9,232	5,939
投資活動CF	△1,673	△3,865	△2,324
フリーCF	292	5,367	3,614
財務活動CF	△1,222	△2,044	△1,845
現金及び現金同等物の期末残高	26,182	29,948	32,394

V-4. 配当金、主要経営指標



配当政策

研究開発や設備投資等を勘案するとともに、業績に応じた利益配分として、安定した利益配分を継続

V-5. 為替影響

①2023年上期 為替影響額

	為替レート		影響額	
	2022年上期実績	2023年上期実績	売上高	営業利益
米ドル	123円15銭	135円01銭	+13.1億円	△1.5億円
ユーロ	134円44銭	145円99銭	+3.2億円	+2.6億円
他通貨	-	-	+1.5億円	+1.1億円
合計	-	-	+17.8億円	+2.2億円

(前期実績に対する影響額)

②2023年下期 為替感応度

	為替レート	1円の変動 (円高)による影響額	
	2023年下期前提	売上高	営業利益
米ドル	137円00銭	△1.6億円	△0.1億円
ユーロ	152円00銭	△0.4億円	△0.3億円

将来の事象に係る記述に関する注意

1. 本資料は、2023年12月期第2四半期の業績及び今後の経営戦略に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の購入や売却を勧誘するものではありません。
2. 本プレゼンテーション資料及び当社代表者が口頭にて提供する情報は、現時点で入手可能な情報をもとに当社が合理的であると判断した一定の前提に基づいております。
3. 実際の業績は記載の見通しとは異なる可能性があり得ますことをご承知おき下さい。
4. 本資料利用の結果生じた、いかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。